

津屋崎山川遺跡発掘調査

所在地 : 福津市宮司六丁目 278 番
調査要因 : 一般開発
調査期間 : 令和5年11月6日～同5年12月15日
調査面積 : 36 m²
調査担当者 : 文化財課文化財係 崎野祐太郎

■地理的・歴史的環境

津屋崎山川遺跡は、福津市中北部の微高地上に所在する集落遺跡であり、遺跡面海拔約4 m、現況海岸線からの距離約1 kmを測る。当遺跡の所在する微高地は、大きくは犬鳴山系宮地岳西麓から西に延びる丘陵地帯に属し、その北側には小河川「在自川」が西流する。調査地点の地山面は、山体に由来する花崗岩系砕屑物の河川堆積層を主体とし、下層に逆級化層理の極粗粒砂を基質とした円礫層、表層に上方細粒化により堆積した細粒砂層から構成される。当遺跡北側に隣接する在自地区名呑では、1974年実施の緊急発掘調査で箱式石棺を埋葬主体とする方形周溝墓が、新堤（在自字外堤、または津屋崎地区新堤池付近）では箱式石棺墓が調査されている。

■検出遺構・遺物

【遺構】

竪穴建物1棟、溝4条、焼土坑1基、小穴多数

【遺物】

弥生土器、土師器、須恵器、石器、鉄器

■所見

1区調査区で確認された直角溝からは、遺構底面で断面方形を呈する鍬状鉄製品細片が約8点検出された。2区調査区では、1辺5m規模の竪穴建物北辺部を確認。底面外周を壁際溝が廻り、北辺中央部には円形のカマド燃焼部が残存する。壁際溝埋土から須恵器甕片と埴輪部が、カマド燃焼部から高坏脚部の支脚転用品が出土した。3区調査区では床面に柱当痕のあるピット群が散在する他、円形小型の焼土坑が1基検出された。



津屋崎山川遺跡空中写真



1区全景



2区竪穴建物完掘及び土層状況



3区全景